

【鍋島賞（最優秀演題賞）】

山内 直紀

北海道大学 薬学部 薬理学研究室

研究課題、タイトル

Chronic pain-induced plastic change in the extended amygdala neural circuit causes maladaptive anxiety

コメント

北海道大学 大学院薬学研究院 薬理学研究室に所属しております博士課程2年の山内 直紀と申します。この度、10月11-13日に福岡国際会議場にて開催された第6回アジア神経精神薬理学会（6th of Congress of Asian College of Neuropsychopharmacology; AsCNP 2019）に参加いたしました。

私は大学院生としては有り難いことに、多くの国際学会で発表させていただく機会を南 雅文 教授より頂いており、本学会は自身4度目の国際学会での発表でした。少しずつではありますが英語での発表にも慣れてきて、昔のような見るに堪えない発表に比べれば幾分マシになってきたかと思えます。もしこのレポートを学生の方に読んでいただいているのだとすれば、ぜひ国際学会への参加を検討してほしいと思います。私のように英語が苦手だとしても、気合と努力と慣れで何とかなるものですし、得るものは大きいと思います。実際に、発表に関しては非常に多くの方から有益な助言を頂き、今後の研究を活性化するきっかけとなりました。くわえて、本学会では著名な先生方のご講演を拝聴でき、非常に良い勉強となりました。特に精神疾患について、基礎や臨床、および国籍に関わらず多くの研究グループがその病態機序の解明や、ケタミンのような有望な薬における作用機序の解明に意欲的であることが印象に強く、アジアにおける当該分野の重要性というものを感じました。

また、今回は所属研究室より7名で参加しており、皆で福岡のグルメを楽しむことができました。会期中はラグビーW杯も行われていたので、夜は居酒屋で日本の試合に熱狂したことも良い思い出です。

末筆ではございますが、この度はJSNP Excellent Presentation Award for AsCNP 2019および鍋島賞のような栄誉ある賞をいただいたことを大変光栄に存じます。このような受賞に至ったのは、ひとえに多くの方のご指導のおかげであると考えています。この場を借りてあらためて御礼申し上げます。この受賞に甘んじることなく、今後とも研究活動に精進してまいります。



大井 一高

金沢医科大学 医学部 精神神経科学

研究課題、タイトル

Shared Genetic Etiology between Anxiety Disorders and Psychiatric and Related Intermediate Phenotypes

コメント

2019年10月11日から13日にかけて福岡国際会議場・福岡サンパレス ホテル & ホールにて第49回日本神経精神薬理学会・第29回日本臨床精神神経薬理学会と同時に第6回アジア神経精神薬理学会大会 (6th Asian College of Neuropsychopharmacology; AsCNP2019)が開催され、日本神経精神薬理学会より学術奨励賞およびExcellent Presentation Award for AsCNP 2019を頂きました。これまでの研究成果が受賞に繋がり、大変嬉しく思っております。また、約4年間にわたり金沢医科大学精神神経科学教室で指導してきました嶋田貴充、片岡譲の2人も第49回日本神経精神薬理学会 一般演題奨励賞を同時に受賞でき大変嬉しく思っております。

AsCNPは、第4回の台北、第5回のバリの大会に引き続き、過去6回中4回参加しているととても馴染みのある学会になります。私事ですが10月1日より岐阜大学大学院医学系研究科精神病理学教室に着任した直後であり、まだまだ緊張感を持って忙しく働いている中の学会参加であり、面識のある先生方や後輩らと接することができ、短い期間でしたがリラックスして学会を楽しめました。

このたび、「中間表現型を用いたゲノム研究」というテーマで学術奨励賞を、「Shared Genetic Etiology between Anxiety Disorders and Psychiatric and Related Intermediate Phenotypes」というテーマでExcellent Presentation Award for AsCNP 2019を頂きました。私は、精神疾患の分子遺伝基盤解明を目的として、精神疾患間の遺伝的共通性 (Cross-disorder研究)や精神疾患と中間表現型 (認知機能、脳構造、性格傾向、喫煙行動など)間の遺伝的共通性 (Intermediate Phenotype研究)に関心があり、これまでに行った精神疾患や中間表現型のゲノム研究結果を報告いたしました。今後、金沢医科大学精神神経科にて立ち上げた、統合失調症患者、非罹患第1度近親者および健常者を対象とした包括的中間表現型解析研究 (SNARP: Schizophrenia Non-Affective Relative research Project)を岐阜大学でも拡大して継続していく予定です (SNARP at Gifu University & Kanazawa Medical University: SNARP-GK)。嶋田貴充、片岡譲の2人の受賞は、このプロジェクトの一環として行った研究であり、今後もSNARP-GKから多くの研究成果が出るように推進していきたいと思っております。

最後に、受賞に関しまして、ご指導ご鞭撻を賜りました皆様、および学会関係者の皆様に、この場を借りてあらためて深謝致します。この受賞を糧に、更に日々の研究に邁進していきたいと思っております。今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。

出山 諭司

金沢大学 医薬保健研究域薬学系 薬理学研究室

研究課題、タイトル

BDNF/VEGF release and mTORC1 activation in the medial prefrontal cortex are required for the antidepressant actions of resolvin E1 in lipopolysaccharide-induced depression model mice

コメント

この度、2019年10月11～13日に福岡において開催された第6回アジア神経精神薬理学会（6th Congress of Asian College of Neuropsychopharmacology: AsCNP2019）に参加し、ポスター発表を行いました。この発表に対して、JSNP Excellent Presentation Award for AsCNP2019 およびExcellent Presentation Award for AsCNP2019 (Category: Resident/Researcher)を受賞することができ、大変光栄に思います。この場をお借りして、共同演者の先生方、並びに学会関係者の皆様に深くお礼申し上げます。

AsCNPへの参加は今回が初めてでしたが、基礎から臨床に至るまで興味深い演題が多く、どのセッションも活発な議論が行われていました。中でも、私自身の研究テーマと関連の深い、ケタミンの即効性抗うつ作用に関するセッションでの発表や白熱した議論には大いに刺激を受けました。自身の発表においても、多くの有益な質問やコメントをいただくことができ、大変勉強になりました。さらに、懇親会や休憩スペースで多くの先生方と交流する機会もあり、非常に有意義な時間を過ごすことが出来ました。

末筆となりましたが、今回の受賞を励みに、今後の神経精神薬理学領域の発展に貢献できるよう精進して参りたいと思いますので、今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

藤野 純也

昭和大学発達障害医療研究所

研究課題、タイトル

Neural mechanisms of decision-making under sunk costs and their association with clinical characteristics in gambling disorder

コメント

2019年10月11日から13日に、福岡において開催されました第6回アジア神経精神薬理学会大会(6th Asian College of Neuropsychopharmacology; AsCNP 2019)に参加させていただきました。今回は、第49回日本神経精神薬理学会・第29回日本臨床精神神経薬理学会との同時開催であったため、国内外からの参加者が非常に多く、神経精神薬理に関する最新の知見に数多くふれることができました。

私は、これまで行動経済学/神経経済学的手法などを用いて、神経精神疾患の意思決定や行動選択に関する特徴を調べてきました。今回は、過去の投資が関わる状況での意思決定に関する研究結果を報告させていただいたのですが、臨床家・研究者の方々から、今後の発展につながる貴重なコメントを多数いただき大変嬉しく思っております。

今回、JSNP Excellent Presentation Award for AsCNP 2019を受賞させていただきましたことを大変光栄に思っております。日本神経精神薬理学会の先生方、所属機関・研究協力施設の先生方をはじめ、本当に多くの方々にお力添えをいただきましたことを、心より感謝申し上げます。神経精神薬理学分野の発展に貢献ができますよう精進して参りますので、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

野村 洋

北海道大学大学院薬学研究院 薬理学研究室

研究課題、タイトル

Brain histamine re-establishes access to forgotten memories after passage of long time and neuronal degeneration

コメント

この度、福岡において開催された6th Congress of Asian College of Neuropsychopharmacologyに参加しました。私は認知機能障害、特に記憶の想起障害を回復させる治療法の開発を目指して研究を進めております。今回は口頭発表にて、ヒスタミン神経系の活性化によって記憶の想起障害が回復することを発表いたしました。発表後に中国の研究者から今後の研究についてのアドバイスをいただくと共に、中枢ヒスタミン業界の最新の動向について意見交換をしました。このように国内外の方と活発にディスカッションできることが国際学会ならではの良さと感じます。発表が1日目の朝に終わったこともあり、その後は特別講演、シンポジウムやその他の口頭発表、ポスター発表をじっくり聞くことができました。神経精神薬理学の幅の広さと、近年の進歩の速さを目の当たりにしました。自分も早く研究室に戻って、研究をどんどん進めなくてはならないと思った次第です。また私は基礎の研究者ですが、普段あまり接点のない臨床分野の研究の話がじっくり聞くことができ、この点でも大変勉強になりました。

今回のJSNP Excellent Presentation Award for AsCNP 2019受賞を励みに、さらに研究を進め、神経精神薬理学の発展に貢献したいと思っております。どうもありがとうございました。

久保田 学

量子科学技術研究開発機構 放射線医学総合研究所
脳機能イメージング研究部 脳疾患トランスレーショナル研究グループ

研究課題、タイトル

Tau accumulation and metabotropic glutamate receptor subtype 5 binding in patients with frontotemporal lobar degeneration: A PET study

コメント

このたび第6回アジア神経精神薬理学会大会(AsCNP2019)に発表参加しましたのでご報告いたします。

本大会は第49回日本神経精神薬理学会年会および第29回日本臨床神経精神薬理学会年会との同時開催であり、2019年10月11日から13日までの3日間開催されました。私はAsCNP初参加となりましたが、今回は日本国内での開催ということもあり、日本の伝統行事の体験コーナーなど、様々な場面でおもてなしの精神を大切に和の演出の工夫がなされていると感じました。参加者は日本を中心とするアジア諸地域が中心ではありませんでしたが、欧米からの研究者の講演もあり、活発な議論が繰り広げられていました。閉会式の際のご挨拶によりますと、参加者は2200人を超えるほどの大盛況だったとのことでした。

本大会では精神神経疾患の病態理解に基づく薬理学的研究に加えて新規治療に向けた試みも多く発表され、経頭蓋磁気刺激法などのニューロモジュレーション、新規創薬ターゲット、治療抵抗性疾患に対するアプローチなど多岐にわたり、いずれも大変興味深いものでした。英語口頭発表セッションは私の口頭発表も含めすべて認知症や統合失調症など疾患単位で構成されていたため、それぞれのセッション内に対象疾患における基礎から臨床までの各研究領域の発表が盛り込まれ、領域を超えたディスカッションとともに普段馴染みの薄い分野についても知識をアップデートする良い機会となりました。夜は食事会や学会主催の交流イベントを通して他施設の研究者との交流を楽しみました。

今回、日本神経精神薬理学会よりJSNP Excellent Presentation Award for AsCNP 2019という大変栄誉な賞をいただきました。受賞にあたり、学会の皆様や研究遂行にご協力いただきました方々をはじめ、多くの方々に大変お世話になりました。この場を借りまして、心より厚く御礼申し上げます。今後の神経精神薬理領域の発展にさらなる貢献ができますよう研究を進めて参ります。

最後になりますが、このたび学会開催時期に重なり、台風19号により日本列島各地に大変大きな被害がもたらされました。被害を受けられた方々に謹んでお見舞い申し上げますとともに、1日も早い復旧を心よりお祈り申し上げます。

浅岡 希美

京都府立医科大学大学院 医学研究科 病態分子薬理学

研究課題、タイトル

An adenosine A2A receptor antagonist, istradefylline, improves multiple symptoms reflecting obsessive-compulsive disorder in mice

コメント

このたび、2019年10月11日から13日に福岡にて開催されました第6回アジア神経精神薬理学会（6th Congress of Asian College of Neuropsychopharmacology：AsCNP）に参加いたしましたので報告申し上げます。本大会は、日本神経精神薬理学会年会、日本臨床精神神経薬理学会年会との合同開催という事もあり、基礎・臨床共に充実した研究発表が行われ、国内外の研究者と交流する絶好の機会でもありました。中でも、基礎研究の領域で研究活動を行っております私にとっては、日ごろ直接議論する機会の少ない臨床分野の研究発表についても議論する貴重な機会となり、今後の自らの研究への大きな収穫となりました。

今回私は、強迫性障害モデルマウスを用いた新規治療標的探索についてポスター発表を行いました。強迫性障害の研究は、特に基礎系の学会では、なかなか独立したセッションとして扱われることがないのですが、AsCNPでは強迫性障害に焦点をあてたセッションが多数開催され、最新の臨床知見を伺うことができました。また、私自身の発表にも、多くの先生方に足を運んで頂き、基礎・臨床の双方の視点からディスカッションを行うとともに、様々なご指摘やアドバイスを頂くことができました。最終日の夕方の発表でしたが、非常にありがたいことにポスター撤収時刻ぎりぎりまで、訪れてくださる方が途切れることがほとんどなく、研究の面でも、人的交流の面でも実りの多い発表となったと感じております。

最後になりましたが、今回、大変光栄なことに、上記のポスター発表に関しJSNP Excellent Presentation Award for AsCNP2019を頂きました。この場をお借りして、日頃よりお世話になっております共同発表者の先生方や学会関係者の皆様に深く御礼申し上げます。今回の受賞を励みに、これからも研鑽を重ね、神経精神薬理学分野の発展に貢献できるよう精進いたします。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



大会長と当室からの受賞者の写真

吉見 陽

名城大学薬学部病態解析学Ⅰ

研究課題、タイトル

Transcriptome analysis of major depressive patients and stress model mice showing depressive-like behaviors

コメント

この度、2019年10月11日から13日に福岡国際会議場・福岡サンパレスホテル&ホールで開催されました第6回アジア神経精神薬理学会（6th Congress of Asian College of Neuropsychopharmacology：AsCNP）に参加させていただきました。神経精神薬理学に関わる国際学会への参加は、2014年の29th CINP World Congress of Neuropsychopharmacology以来であり、重厚な抄録集に目を通してから会期が非常に待ち遠しく感じていました。

本大会では、世界をリードするアジア圏の研究者が中心となり、神経精神薬理学分野の最先端の基礎・臨床研究に関するシンポジウム・一般演題にて活発な議論がなされていました。筆者が参加した治療抵抗性精神疾患（特に統合失調症やうつ病）の病因・病態生理解明研究や新規治療薬開発に関するセッションでは、基礎・臨床双方の観点から、分子生物学・細胞生理学・行動薬理学・神経精神薬理学・薬物動態学・精神科遺伝学・疫学など幅広い分野の最新の知見を会期中に俯瞰して整理することができ、非常に勉強になりました。

ポスター発表では、「Transcriptome analysis of major depressive patients and stress model mice showing depressive-like behaviors」というタイトルで発表させていただきました。座長の先生や国内外の研究者から様々なご質問・ご意見を頂き、今後の研究課題の克服に向けて非常に有意義なディスカッションを行うことができました。日本神経精神薬理学会よりJSNP Excellent Presentation Award for AsCNP 2019を授かることになり、ご指導賜りました先生方、学会関係者の皆様に心より御礼申し上げます。今回の受賞を励みに、神経精神薬理学領域の基礎・臨床研究の発展に貢献するべく精進してまいります。今後ともご指導・ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

内田 美月

名城大学薬学部病態解析学Ⅰ

研究課題、タイトル

Functional roles of glutamate transporter in neurodevelopmental processes

コメント

2019年10月11日から13日に福岡国際会議場・福岡サンパレスホテル＆ホールで開催されました第6回アジア神経精神薬理学会（6th Congress of Asian College of Neuropsychopharmacology : AsCNP）に参加させて頂きました。AsCNPには初めて参加させて頂き、ワールドカップのラグビーで日本中が盛り上がる中、本大会もそれに負けないくらいの熱気で盛り上がりを見せていました。

この度、日本神経精神薬理学会よりJSNP Excellent Presentation Award for AsCNP 2019を受賞し、日々の研究成果がこのような名誉ある受賞に繋がり、大変嬉しく存じます。常日頃よりご指導ご鞭撻を賜りました皆様、学会関係者の方々にこの場をお借りして深く御礼申し上げます。

本大会は、第49回日本神経精神薬理学会（49th Annual Meeting of Japanese Society of Neuropsychopharmacology）と第29回日本臨床精神神経薬理学会（29th Annual Meeting of Society of Clinical Neuropsychopharmacology）の3学会同時開催であり、アジアにおける神経精神薬理学に関する基礎から臨床までの最先端の研究をシンポジウムや一般演題で拝聴させて頂きました。筆者はポスター発表において、「Functional roles of glutamate transporter in neurodevelopmental processes」というタイトルで発表させて頂きました。座長の先生や国内外の研究者から多数のご質問を頂き、自身の研究を見直す良い機会となりました。今回の受賞を励みに、神経精神薬理学分野における知見を広げ、今後もコツコツと研究に取り組んで参ります。

佐野 康徳

慶應義塾大学医学部医学研究科博士課程3年
量子科学技術研究開発機構 放射線医学総合研究所
脳機能イメージング研究部
脳疾患トランスレーショナル研究グループ 実習生

研究課題、タイトル

Reduced striatal density of phosphodiesterase 10A in bipolar disorder

コメント

このたび第49回日本神経精神薬理学会大会(JSNP2019)に発表参加致しました。本大会は第5回アジア神経精神薬理学会および第29回日本臨床精神神経薬理学会年会との同時開催であり、2019年10月11日から13日までの3日間開催されました。基礎から臨床まで様々なトピックがあり大変勉強になりました。特に双極性障害でのセッションでは質疑応答も活発で多くの研究者の方と交流を深めることができ貴重な機会となりました。

今回、日本神経精神薬理学会よりJSNP Excellent Presentation Award for AsCNP 2019という大変名誉ある賞をいただきました。受賞にあたり、学会を運営して下さいの皆様、日々研究を指導して下さいの皆様、共同研究者の皆様、患者様をご紹介して下さいの先生方、研究にご協力して下さいの患者様をはじめ、多くの方々に大変お世話になりました。この場を借りまして、心より厚く御礼申し上げます。

私はPETというモダリティを用いて、今後も双極性障害、気分障害の病態解明に努めていこうと考えております。また基礎研究とのトランスレーショナルリサーチにより、更に多くの知見が得られるのではと考えております。今回の受賞を励みに、神経精神薬理学分野の発展に貢献できるように日々精進致しますので、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

最後になりますが、この度の台風19号により被災された地域の皆様に謹んでお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復旧を心よりお祈り申し上げます。